
本の気持ち

たかぴょん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

本の気持ち

【Nコード】

N1804G

【作者名】

たかぴょん

【あらすじ】

イエスキリストはゴルタゴの丘で処刑された。わたしはわが家の畳の上で処刑された。

ひねくれた陽射しが塀を嫌って、そつぽを向いていた。もはや乾ききった溝とは言えない空洞に、一冊の本が捨てられてある。

八歳のわたしは兄とボール遊びをしていた。そしてその異物を発見したのである。内心、わたしはそれをふ菓子は何百本買えるだけの価値があるものと思えた。また小さな蟻が本に貼り付いた細かい泥の間をくねるのを見て、手に取りたくないものと思えた。きつと兄も同じ考えが脳細胞を支配していたと思う。

「あ、すごいがある。こんなもん読むやつが分からない」

もちろんわたしの、百八十度正反対の証言だ。意地を張って、つたが木に絡まるように知らぬ顔を通した。わずか八つの子でもわいせつを好む。そんなことを母親や先生たちに知られてしまうのに耐えられなかった。わたしは極端な性癖の持ち主なのだろうか。

「お腹が痛いから」

わたしは母親と兄が買い物へ行くのを見送りながら、頬を真っ赤にさせていた。そして水道の蛇口をひねり、直接水を胃袋へ注いだ。その儀式が済んだあとは、静寂が漂っていた。かすかに数台の車の排気音が聴こえるだけである。

壊れるほど扉を開けた。例の本を持ち帰った。居間の畳に新聞紙を広げ、それを開いた。漫画だった。女子高生がアパートの前に立っていた。その住人であるらしい三十歳近くのたくましい青年が、彼女の行く手を塞いだ。やがてシーンは室内へ移ったとわたしの脳は記憶している。両脚をロープで縛り付け広げ、股間にウィンナーを入れていた。彼女は青年がそれを押し込めるたびに、悲鳴を上げ

ていた。わたしは呼吸をするのを忘れるぐらいわけが分からなくな
った。吹き出しを読もうとした。

「漢字だらけで難しいな」

わたしは気持ちを落ち着けようと、わけが分からない独り言をつ
ぶやいた。

子どもは性器を好まない。この世間は必要以上に常識のボーダ
ーラインを引きたがる。ある支配階級の人間に好都合な線画。圧迫
感を抱く弱者は声を潜めて真実を語る。

目の前に居る好きな異性へ、その真意を告げられない。そんな
ことに瓜二つな心理であろう。

一冊の本は真実を暴露したのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1804g/>

本の気持ち

2010年10月10日01時24分発行